

町田市議会議員・ネット発信NO. 1

吉田つとむ

ユーチューブ動画 860 万回再生を突破



学校請願 16×18 で不採択、問題多い計画

住民請願や議会の審議で問題を指摘されながらも、町田市は一度決めた公立小中学校の統廃合を強引に推進しています。前の議会では、最初に統廃合を進める成瀬地域(南成瀬小学校と南第二小学校を統合する)の廃校に伴う通学状況の改善を求めるスクルバス必要性を求めた請願が採択されましたが、教育委員会は微細な問題という意識か、意に介さない対応で統廃合計画を進めています。



今期の議会では、町田市の統廃合計画の実施プランにもとづく小学校の運動場の面積が不足しているため、見直しが必要だと言う問題指摘が住民請願で出されました。本会議の討論で無所属会派の新井よしなお議員は、この面積問題に関して現行の計画では文科省の手引き＝「公立学校施設台帳作成提要」を無視した数値になっていること、教育委員会が例示する小山ヶ丘小学校の例の数値は、体育用具置き場などを含めない数値だと、請願者が文科省に確認した話を紹介して指摘しました。数は力と 16×18 で請願は退けられました。事実確認を無視した教育委員会の判断、学校統合の推進は、将来に禍根を残す結果をもたらすと考えています。

学校給食無償化の方向と町田市

町田市は、「子育て支援策の一環として多子世帯(満 18 歳未満の児童を 3 人以上扶養している世帯)の負担を減らすため、町田市立小・中学校に通う第 2 子以降の児童・生徒の学校給食費が無償となります。」としています。ただし、近隣の東京都内自治体の半数以上の自治体は全員を公費負担とする政策転換を図っており、日々無償化施策が拡大しています。

その違いは、町田市のような基礎自治体の予算の中にその負担分を盛り込むか、それとも国がやらない分はあくまで自己負担でやってもらうかという選択にあるのですが、以前のように、自治体は幼児世代の無償化をしていけば済むと言う時代から、青少年時代まで学校給食は公費負担でまかない、昼食を等しく取れる条件と温かい給食を提供する課題が一体化したと言えます。

今後、町田市は全域で中学校給食をセンター方式導入で全面実施しますが、その給食費も含めて、公費負担に切り替え、本人負担なしに切り替える方針転換が差し迫る課題になるでしょう。その方針転換は予算を必要とすることですが、町田市が他の一般事業を縮小すること、あるいは市の新規事業を取りやめることで賄うほかないと考えています。



◎町田市議会は定数 36 名(1 名が任期途中で退職し、現在は 35 名)。大多数はそれぞれの会派に所属します。吉田つとむは、「無所属」という 3 名の会派に所属しています。議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人単位で行います。

その「無所属」会派の 3 名は、採決において、自由に賛否を決める場合があります。

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員(4 期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



決算意見：郵送料の削減、統計比較数値

2023 年度決算を認定(承認)し、意見を付ける

所属する総務常任委員会における決算認定に関し、吉田つとむが提案したものは全委員から賛成の評価を受けました。以下、主要内容と説明を書き出します。



文書送付の利用基準をさらに厳格化し、電子メールなどの方法を拡充し、経費の削減に取り組まれない。(数億円に達する郵送料の削減が課題と考える)

正規職員の採用に関して、引き続き氷河期世代の人員採用を継続するとともに、その人数も拡充するよう取り組まれない。(この世代の就業取り組みは全世代の責任と理解する)

住民からの情報要求に関して、可能な限り、情報提供の方法によるサービスを拡充するよう図られたい。(手数料がかかる情報公開対応を削減し、事務の効率化を図る)

広告収入の増加に努め、ネット時代に即応したより効果的な広報手段の拡大と、広報紙配布方法の低コスト化の選択を図られたい。

(前段は他の委員の冒頭部分と統合し、1 文としたもので、郵送料が多額となっている) 町田市の数量順位比較に関して、多摩地域 26 市で比較するべきものと、同規模都市と比較するべきものを整理し、合理的に分かりやすく説明されたい。(都市比較の指標の改善)

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和 4 年 2 月実施の市議会議員選挙で、4 期連続のトップ当選を果たしています

決算意見：中核市や市民税

左右の欄とも吉田が指摘し賛同を得た提案

中核市候補市の施策に関して、候補市の町田市が情報を得るだけでなく、既存の中核市とお互いに寄与する視点を持って、対応されるように努められたい。(同当市と協調連携)

世代別の一人当たりの納税額の特徴に即して、納税額と割合の向上の課題把握に努め、市民に分かりやすく公表されたい。(納税者層の動向情報を初めて公開比較した)

中心市街地歩行者通行量の目標設定に関しては、一律に長期目標を毎年固定して設定しているが、現実に即して中期的な目標数値を具体化して設定し、現状の政策課題に反映されるように改善を図られたい。(単純に通行量を拡大すると言う発想の検証)

町田ターミナルプラザにおけるアーティストの活動に関して、夜の時間が十分に利用されておらず、若者に人気を博して活用されるよう広報改善と使いやすい環境改善を図られたい。(若者に人気がある街にする)

原町田一丁目駐車場と町田ターミナルは中心市街地における貴重な収益をもたらす行政財産であり、できるだけ長寿命化を図り、使用料収入の着実な維持と利用者の利便性確保を図られたい。(収益施設を大事にする)



委員会の採決：掲載写真は参考写真

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4 期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP
メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第 55 期生を募集予定

インターン体験記⑤-1 佐々木 瑛

小川小学校の学級担任団について

町田市立小川小学校に伺いました。小川小学校は現在、従来の一つのクラスを一人の先生が担当する学級担任制でなく、学級の担任団が、週ごとに交代で各クラスの担当となるチーム担任制を採用しています。今回はこのチーム担任制の魅力についてお話を聞かせていただきました。まず一つ目のメリットは、子どもの多面性を見ることができるということです。関わる人によって態度を変えることは子どもに限らずよくあることです。そのため、2, 3 人の先生が交代していくことで一人の担任の先生では知ることのできない子どもの様々な性質を発見し、そしてそれを子どもの教育に活かすことを目指します。



2 つ目のメリットは担任団が交代で各クラスを回することで、隣のクラスで起こった出来事を自分事のようにとらえることができるため、学年としてのまとまりが生まれるということです。学年というくくりはあっても、各クラス一人の先生のみで見ているとクラスごとに独立し、何か問題があった際には一人の先生のみで責任になります。しかしこれをチーム担任制にすることで、先生同士が責任を共有し、トラブルが起こった際に支えるような環境を作ることができるそうです。

◎吉田つとむのインターンシップは 1998 年に開始、2024 年 8 月末までに 109 名が参加しました。

◎ インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎2024 年度後期より、新たに 55 期生の募集を行います。

インターン体験記⑤-2 佐々木 瑛

南第四小学校の二学期制

南第四小学校は、以前から二期制を取り入れている小学校です。今までずっと三期制を経験してきた私は、今回二期制にすることのメリットを教えてくださいました。二期制は十月の中旬を境とし、一年度を二つに分けたものです。夏休みをはじめとした長期休みの期間は変わらないため、生徒の立場から見ると成績が出るタイミングが変わるだけでそこまで変化は感じにくいかもしれません。

しかし、教師の立場から考えると、三期制では長期休み前に行う成績処理を二期制にすることによって長期休み期間中へとずらすことができます。これによって先生が長期休み前の成績処理の忙しさに追われることなく、余裕をもって生徒と関わる事が可能になります。また、成績処理の時期を、主な所見を夏休み中に、数値的な評価を学期末に、と二つの時期に分散できることによって、先生にとっての負担の軽減にもつながるということを学びました。学校では、生徒同士のかかわりはもちろん、教師と生徒間での交流の時間も確保することが重要であると再認識できました。

東京学芸大学 2 年生 佐々木 瑛(第 53 期)



インターンシップで若者育成の貢献
町田市議・完全無所属・良識ある保守

吉田つとむ



好評インターンシップは、欠かさずに続いている

インターン体験記⑥西條菜々美

本日のインターンシップでは、町田市の自治会が開催するお祭りの運営を手伝いました。お祭りは地域の人々が一堂に会し、伝統的な文化や食べ物を楽しむ場であり、その運営に携わることができたのは貴重な体験でした。

まず、焼きそば作りの担当をしました。焼きそばはお祭りの定番料理で、多くの来場者が楽しみにしている一品です。猛暑の中での作業は、非常に体力を使うものでしたが、作業に慣れてくるにつれて、やりがいを感じるようになりました。

また、山車を引くイベントにも参加しました。山車はお祭りのハイライトの一つで、地域の伝統を象徴するものです。重い山車を引くのは大変でしたが、チームワークが求められる作業であり、他の参加者の方々と協力して進めることで、一体感を感じることができました。

このインターンシップを通じて、自分の地元ではないものの、地域社会の一員としての役割や責任を実感することができました。また、地域の伝統や文化に触れることで、自分自身の視野も広がりました。今後もこのような活動に積極的に参加し、地域社会に貢献していきたいと強く感じました。



昭和女子大学 3 年生 西條菜々美(第 54 期)

◎吉田つとむのインターンシップは、参加者との個別対応が特徴です。

◎吉田つとむのインターンシップは、社会人になった先輩インターン生との直線面談が好評です。

◎吉田つとむの元インターン生は、一般企業就職が最大で、次いで公務員。弁護士が 3 人。

インターン体験記⑥蛭田 咲菜

今回のインターン体験は、先週設営のお手伝いをさせていただいたコープタウン自治会のつきみ祭り当日の手伝いでした。雲一つない青空で天気にも恵まれ、祭り会場は多くの子供たちで賑わっていました。そんな中私たちインターン生は、焼きそばの屋台をお手伝いさせていただくことになりました。現地向かうまで今回は何をするのか知らされていなかったため、伝えられた時は戸惑いましたが、すぐに作業にも慣れることができました。作業をする際、お手伝いできることはないか聞いたり、わからないことを聞いたりする中で沢山地域の方々と交流をすることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。優しく声を掛けていただくこともあり、地域の方の温かさに触れることができました。

その中で私は、地域交流の意味を考えさせられました。活発な地域交流は、各住民に対してはもちろん、その地域全体にも多くのメリットをもたらします。住民同士の交流が増えると、普段からの助け合いはもちろん、災害時の安心感にも繋がります。また、常に顔見知り同士の見守りがあるため、防犯にも繋がると考えました。それに加え、地域での交流を通して人との繋がりを持つことにより、精神的な居場所を作ることができます。一人暮らしや子育てなどによる精神的負担を軽減することができると思いました。

今回の研修を通し、地元の方々の温かくアットホームな雰囲気を肌で感じる事ができました。ありがとうございました。

昭和女子大学 3 年生 蛭田 咲菜(第 54 期)